

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1年	2	選択
担当教員			
佐々木 正仁			

授業のねらい（概要）	世界的に拡大を続けている電子商取引（Eコマース）について、学部科目として設置されている「電子商取引」をさらに発展させた内容になります。特に、インターネット上で商品売買を行うための実装技術の一つとして携帯アプリケーションを取り上げ、演習を通して電子商取引の実現方法について学びます。具体的には、Android、Java等を使ったアプリケーション開発を体験します。
授業計画	<p>①「電子商取引特論」について（講義概要、講義目標、成績評価の方法など）</p> <p>②電子商取引基礎理論1（電子商取引業界をとりまくビジネス環境について）</p> <p>③基礎理論2（BtoB市場の特性）</p> <p>④基礎理論3（BtoC市場の特性）</p> <p>⑤基礎理論4（ショッピングサイトの特徴）</p> <p>⑥電子商取引実装に関わる技術</p> <p>⑦電子商取引のための携帯アプリケーション概要</p> <p>⑧携帯アプリケーション開発環境</p> <p>⑨Android開発環境の設定</p> <p>⑩Android開発演習</p> <p>⑪Java開発環境の設定</p> <p>⑫Java開発演習</p> <p>⑬電子商取引のための携帯アプリケーション開発演習基礎</p> <p>⑭電子商取引のための携帯アプリケーション開発演習応用</p> <p>⑮これからの電子商取引および「電子商取引特論」に関するまとめ</p> <p>予習（時間）： 授業計画の各項目・目標に対して、準備と予習を十分に行い、学修における準備不足や課題実践の遅れや未達成が生じないように、日頃より心がけること。また、企業における電子商取引の特徴と発展については特に予習の充実を図ること</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	特に、「一般的及び専門的教養の基礎の上に、構造的・システムの分析能力を身につけている」「実践的な問題解決能力及び管理運営能力を養い、知識基盤社会を支える高度で知的な素養を身につけている」を養成する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電子商取引を支える技術を理解できる 2. 流通・決済システムの実態を理解できる 3. 暗号をベースにした認証などの仕組みを理解できる 4. 法制度上の問題点を理解できる
課題や小テスト等のフィードバックの方法	授業時に提出してもらった課題について、翌週以降にディスカッションを行い理解を深める。
履修上の注意	教員・履修者の双方向での講義によるスタイルを取る場合には、積極的な発言が求められます。
成績評価の方法・基準	課題レポート（70%）と学習意欲（30%）を総合して評価します。
教科書	特に使わず、電子教材・課題プリントを配布する。
参考書・教材	【教材】適宜資料を配付します。
備考	講義科目
教員との連絡方法	授業時に知らせます。